

研究者名※	坪内 綾子	学位※	修士(文学)
所属※	文学部 史学科	職名※	助教
連絡先	tsubochia@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/7000019435		
研究分野※	人文学／史学／日本史		
研究キーワード※	中世史、史料研究		
共同研究・競争的資金等の研究課題	「建築・聖教・美術から見た新義・古義を包括的に捉える日本密教史の再構築」(科学研究費、基盤(B)、研究分担者、2017～2020 年度)		
社会貢献・産学官連携活動等	京都の醍醐寺、和歌山県の根来寺はじめ、近畿や鎌倉地域の諸寺院における文書・聖教の史料調査に参加し、諸寺院の寺史解明に寄与している。		
受賞歴	「日本女子大学茅野蕭々・雅子記念賞」(2006 年度) 「日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞」(2012 年度)		

研究領域	中世史、史料研究	(SDGs)	 
研究テーマ※	「春日権現験記絵」の編纂をめぐる研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 鎌倉後期成立の絵巻「春日権現験記絵」につき、成立・編纂過程の研究を行っている。本絵巻は春日社(現春日大社)に関わる霊験について描かれたもので、同社を氏神とする藤原氏、藤原氏の氏寺である興福寺の僧侶が中心となって制作されている。そのためこの絵巻の研究は、藤原氏・興福寺・春日社の三者の関係性の解明に寄与するものである。 また本絵巻には、平安院政期から鎌倉期にかけて実在した、興福寺・東大寺など南都僧による春日信仰の様子が描かれている。この時期は、神祇信仰に教義が芽生え徐々に神道化していく画期でもあり、寺院社会が神祇をどのように捉えていたのか、神仏習合の実態の一端を示す素材と位置付けられる。 なお詞書の素材には上記のような諸寺社に残された聖教や説話集、日記など様々な史料が活用され、編纂がなされていることから、寺社・貴族ら僧俗にまたがる人的ネットワークや言説を共有する場・環境の解明を期待できるものである。 【応用例、研究の展望】 上記のように、一具の絵巻を切り口として、歴史学のみならず美術史学・宗教史・中世文学など様々な研究分野との共同研究により、絵巻をとりまく時代的・社会的背景の研究の深化が期待される。 なおこのような研究手法は、他の絵巻や美術・文学作品などに応用可能である。 【研究方法の特色】 本研究は、絵巻物を「編纂物」として検討することであり、そのために①制作者、②詞書の蒐集・選定・配列、③編纂意図という3つの観点から解明を試みるという点に特色がある。ただし当研究における最大の課題は、編纂過程を示す史料や詞書の素材となる話譚の残存が乏しい点にある。そのため、散在する寺院史料や記録類などを地道に蒐集し検討を加えている。 本絵巻研究は、前項のような諸分野から多くなされてきたものの、絵巻制作者の名前が詳細に記されていることから、かえって①制作者間の関係性が検討されてこなかった。が、制作者の属性や相互の関係は編纂意図や作品に通底する思想に影響を及ぼすものと考えられることから、重要な研究課題である。そこで、絵巻の発願主西園寺公衡と編纂の中核を担った弟覚円との関係性、自身が「編纂者集団」と位置付けた覚円・慈信・範憲という三人の興福寺僧の相互関係について、それぞれ検討を加え、論文化した。		

	現在は、②詞書のうち、これまで研究史上等閑視されていた南都僧にまつわる話譚群を検討し、③編纂意図の解明を目指している。
本研究関連 特許・論文等	・坪内綾子「西園寺公衡の信仰―「春日権現験記絵」の発願と制作―」『史艸』62号P.33-62、2021年11月 ・坪内綾子「「春日権現験記絵」の編纂者」、永村真編『中世寺院の仏法と社会』勉誠社、2021年6月 ・坪内綾子「「春日権現験記絵」にみる記録の説話化―巻一「金峯山御幸事」・巻二「寛治御幸事」を通して―」『日本女子大学文学部紀要』67号P.135-150、2018年3月 ・坪内綾子「「春日権現験記」にみる解脱房貞慶への認識」松尾金藏記念奨学基金編『明日へ翔ぶ：人文社会学の新視点』風間書房、2014年3月 ・坪内綾子「興福寺の春日社進出と「承平託宣」―「春日権現験記」巻一第一段「承平託宣事」を通して―」『史艸』52号P.90-114、2011年11月
共同研究・外部機関 との連携への期待	・美術史学・宗教史・中世文学など諸研究分野との連携